

甲佐町オレンジ通信

令和 8 年 8 月 甲佐町地域包括支援センター

第 3 号(通巻第 113 号)

「生と死を考える」とはよく生きること



甲佐町の 7 月盆はいかがでしたか？菊を育てる人がいたり、お盆で、家族を迎えたお家があったり、どなたかがお亡くなり初盆の家があったりしたことでしょう。NHK の新日本風土記のテーマ曲の「あはがり」などを聞くと、お盆の時期は、特に命の大切さを思い出します。人はずっと生きていることはできないのだから、この命と体に感謝しようというような歌です。

認知症になると、亡くなったご家族と最近会ったと話される方もあります。症状で言うと、イキイキと話される時は「作話」、亡くなった人が見えると言われると、「幻覚」という症状かもしれませんが、できれば無視せずに、本人にお付き合いしていただきたいと思います。

そのお話の中に、出てくる人は、ご本人にとって、とても大切な人ではないでしょうか？本当は会いたいけれど会えな



い人かもしれません。^{げんじつむ}現実夢のような感じでしょうか？

認知症の方の看取りの時も「ご主人がきっとそばにいますよ」など、お話しすることもあります。生きている人と亡くなった人を私達は物理的に線引きしてしまいましたが、過去には共に生活し一緒に喜んだり悲しんだりと同じ時間を過ごしてきた記憶は嘘ではないのです。そして、看取りの時、生と死は曖昧になり、最後に生者が手を握るという行為で、死にゆく人に愛情が伝わり、見守る周りの人にも深い慈しみが広がります。



子どもたちにも「よく生きることと死ぬこと」を伝えていきたいです。年齢を重ねた人の役割は、関わる人に、身をもって、生老病死を伝えることではないでしょうか？良きことも悪きことも伝えてあげたいです。若い人は、年齢を重ねた人のその年輪を重ねた手に触れて、心に残る話を聞いてもらいたいです。そんな夏のこの時期になればいいなと思います。



甲佐町地域包括支援センターでは、6月から月に1回、全10回にわたって認知症に関する情報「甲佐町オレンジ通信」を発行します。

お問い合わせ先
甲佐町地域包括支援センター
(甲佐町役場 福祉課)
TEL 234-1114